アカデミックスカラロボットモーションコマンド送信 RTC ScaraRobotControlRTC

解説マニュアル

(第1.1.0版)

埼玉大学 設計工学研究室 2015 年 11 月 6 日

【改版履歴】

日付	版番号	改版ページ	改版内容
2015.10.31	1.0	全ページ	新規作成
2015.11.2	1.0.1	pp.13-14	「6. ソースコード,ライブラリの引用・
			参照箇所」追加
2015.11.6	1.1.0	pp.4-6, pp.8-9,	OpenRTM-aist C++ 1.1.1-RELEASE へバ
		p.12	ージョンアップ,RTC の仕様を詳細化,コ
			ンフィギュレーションの誤り修正, RT
			System Editor上での外観,および接続例
			の追加,雑多な修正

【目次】

[7	【改版履歴】	1
1.	1. はじめに	3
	1.1 概略	3
	1.2 本書を読むに当たって	3
	1.3 関連文書	3
	1.4 関連リンク	3
	1.5 動作環境	4
	1.6 開発環境	4
	1.7 ライセンス	4
2.	2. RTC の仕様	5
	2.1 データポート	5
	2.1.1 InPort	5
	2.1.2 OutPort	5
	2.2 サービスポート	5
	2.2.1 プロバイダ	5
	2.2.2 コンシューマ	5
	2.3 コンフィギュレーション	5
	2.4 RT System Editor 上での外観	6
	2.5 RTC の接続例	6
3.	3. オペレーションファイル・コマンド一覧	7
	3.1 低・中レベル共通インタフェース	1マンド7
	3.2 中レベルモーションコマンドイン	フェースコマンド7
4.	4. RTC の作成手順	8
5.	5. CSV ファイル作成手順	10
6.	6. 操作手順	10
7.	7. コンソール画面説明	11
8.	8. ソースコード、ライブラリの引用・参照	箇所 11

1. はじめに

1.1 概略

本書では、ヴイストン株式会社製アカデミックスカラロボットオペレーション RTC である ScaraRobotControlRTC の詳細について述べる.

1.2 本書を読むに当たって

本書はRTミドルウエアに関する基礎知識を有した利用者を対象としている.

1.3 関連文書

本書に関連する文書を以下に示す.

No.	文書名	発行元	版数	備考
1	ロボットアーム制御 機能共通インタフェ ース仕様書	JARA,埼玉大学 設計工学研究室	SI 単位系準 拠 1.0 版	NEDO で規定されたロボットアーム制御機能共通インタフェースの仕様を拡張したもの.

1.4 関連リンク

本書に関連するリンクを以下に示す.

No.	リンク名	URL
1		

1.5 動作環境

OS	Windows7 SP1
RTミドルウエア	OpenRTM-aist-1.1.1-RELEASE
ランタイムライブラリ	Visual C++ 2010 ランタイム

1.6 開発環境

os	Windows7 SP1
RTミドルウエア	OpenRTM-aist-1.1.1-RELEASE
RTCBuilder	OpenRTP 1.1.0-RC5
開発言語	C++
コンパイラ	Visual C++ 2010 Professional

1.7 ライセンス

本書,並びに本RTCは,MITライセンスのもとに提供される.

2. RTC の仕様

2.1 データポート

2.1.1 InPort

ポート名	データ型	データ長	説明
-	-	-	InPort なし

2.1.2 OutPort

ポート名	データ型	データ長	説明
-	-	-	OutPort なし

2.2 サービスポート

2.2.1 プロバイダ

ポート名	インタフェース型	説明
-	-	プロバイダなし

2.2.2 コンシューマ

ポート名	インタフェース型	説明
ManipulatorCommon	JARA_ARM::Manipulator	低・中レベル共通コマンドイン
Interface_Common	CommonInterface_Common	タフェース
ManipulatorCommon	JARA_ARM::Manipulator	中レベル・モーションコマンド
Interface_Middle	CommonInterface_Middle	共通インタフェース

2.3 コンフィギュレーション

名称	データ型	デフォルト値	説明
BaseOffsetX	double	0.0	ベースオフセットのX軸方向の値
BaseOffsetA	double	0.0	単位:[m]
DagaOffactV	double	0.0	ベースオフセットのY軸方向の値
BaseOffset i	BaseOffsetY double	0.0	単位:[m]
FilePass	atrin a	G1	読み込む csv ファイルが保存され
riierass	string	Sample.csv	ている場所までのパス
Constant int	30	ロボットの動作速度	
Speed	int	30	(整数値,0~100 [%])

2.4 RT System Editor 上での外観

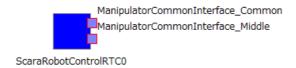


図 2.4.1 ScaraRobotControlRTC

2.5 RTC の接続例

1) VS_ASR_RTC に接続

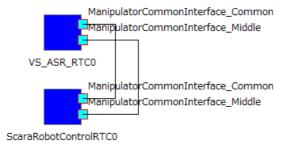


図 2.5.1 VS_ASR_RTC に接続した ScaraRobotControlRTC

3. オペレーションファイル・コマンド一覧

3.1 低・中レベル共通インタフェースコマンド

No.	コマンド	書式	説明
101	SERVO_OFF		全軸サーボを OFF にする.
102	SERVO_ON		全軸サーボを ON にする.

3.2 中レベルモーションコマンドインタフェースコマンド

No.	コマンド	書式	説明
201	HAND_CLOSE		ハンドを完全に閉じる.
202	HAND_OPEN		ハンドを完全に開く.
203	HAND_MOV	Rate 単位:[%]	ハンドを指定した開閉角度とする.
204	CMVS	X, Y, Z, Rz 単位: X, Y, Z [m], Rz [rad]	ロボット座標系の絶対値で指定され た目標位置に対し、直交空間における 直線補間で動作させる.
205	CMOV	X, Y, Z, Rz 単位: X, Y, Z [m], Rz [rad]	ロボット座標系の絶対値で指定され た目標位置に対し、関節空間における 直線補間で動作させる.
206	JMOV	J1, J2, J3, J4 単位:J1, J2, J4 [rad], J3 [m]	関節座標系の絶対値で指定された目標位置に対し、関節空間における直線補間で動作させる.

4. RTC の作成手順

1) 本パッケージにおけるソースファイルディレクトリ (..¥RTC¥ScaraRobotControlRTC¥src) を指定し、Cmake を用いてソリューションのビルドを行う.

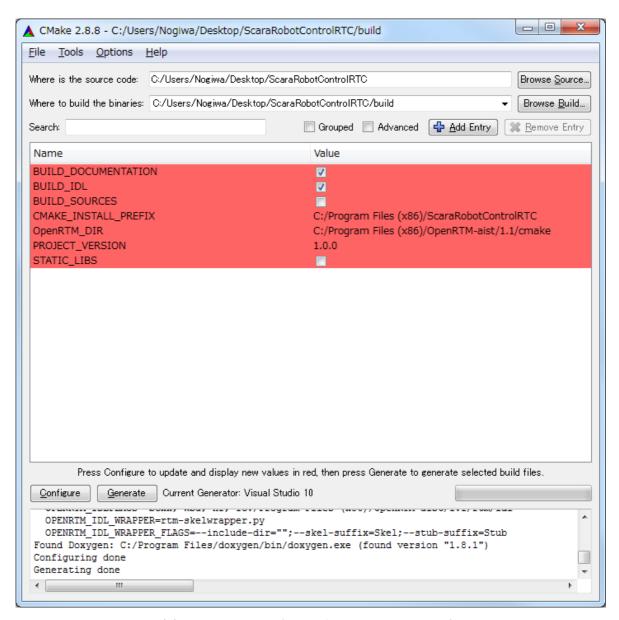


図 4.1 Cmake によるソリューションのビルド

- 2) 生成された sln ファイルからプロジェクトを開く.
- 3) ツールバーにおいて、「Debug」モードから「Release」モードへ切り替える.

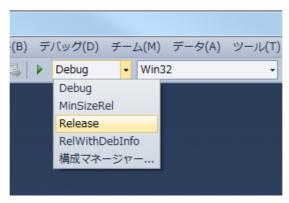


図 4.2 「Debug」モードと「Release」モードの切り替え

- 4) ソリューションのビルドを行う.メニューにおいて、「ビルド」、「ソリューションのビルド」の順に 選択する.
- - · ScaraRobotControlRTC.dll
 - ScaraRobotControlRTC.exp
 - ScaraRobotControlRTC.lib
 - · ScaraRobotControlRTCComp.exe
 - · ScaraRobotControlRTCComp.exp
 - $\cdot \quad ScaraRobotControlRTCComp.lib$
- 6) 実行ファイルが生成されたディレクトリに対し、次に示す2つのファイルを追加する.
 - · rtc.conf
 - · Sample.csv

"rtc.conf"は以下に示すディレクトリに存在する.

"Sample.csv"は以下に示すディレクトリに存在する.

5. CSV ファイル作成手順

本 RTC において使用する CSV ファイルは, 3.2 節で解説した中レベルモーションコマンドインタフェースの書式に従って作成する.

ここでは、"Sample.csv"を例に解説する. 本 RTC において使用する CSV ファイルは1行に1つのコマンドを記述する. よって、1 つのコマンドを書き終える度に必ず Return する. また、文字入力はすべて半角である. CSV ファイルはテキストエディタや Microsoft Excel などで編集することができる.

SERVO_ON

JMOV,0,0,0.05,0

CMVS,0.14,0.07,0.05,0

HAND_OPEN

CMVS,0.14,0.07,0.005,0

HAND_MOV,4

CMVS,0.09,-0.07,0.05,

CMVS,0.09,-0.07,0.005,0

HAND_OPEN

CMVS,0.14,-0.07,0.05,0

CMVS,0.14,0.07,0.05,0

CMVS,0.14,0.07,0.005,0

HAND_MOV,4

CMVS,0.09,-0.07,0.05,

CMVS,0.09,-0.07,0.005,0

HAND_OPEN

CMVS,0.14,-0.07,0.05,0

CMVS,0.14,0,0.05,0

図 5.1 Sample.csv

6. 操作手順

- (1) ネーミングサービスを起動する.
- (2) プロバイダ側(VS_ASR_RTC), およびコンシューマ側 RTC である本 RTC(ScaraRobotControlRTC) の exe ファイルを実行する.
- (3) 本 RTC のコンフィギュレーションにベースオフセット, 読み込む csv ファイルが保存されている場所までのパス, およびロボットの動作速度を設定する.
- (4) RT Syetem Editor を用いて RTC のサービスポート (ManipulatorCommon Interface_Common, ManipulatorCommonInterface_Middle) をそれぞれ接続する.
- (5) プロバイダ側 RTC, コンシューマ側 RTC の順で Activate する.

7. コンソール画面説明

"scararobotcontrolrtccomp.exe"を実行し、Activate すると以下に示すようなコンソール画面が表示される. この画面では、オペレーションファイルの実行:《s》、終了処理:《e》の2つのコマンド入力を受け付けている.

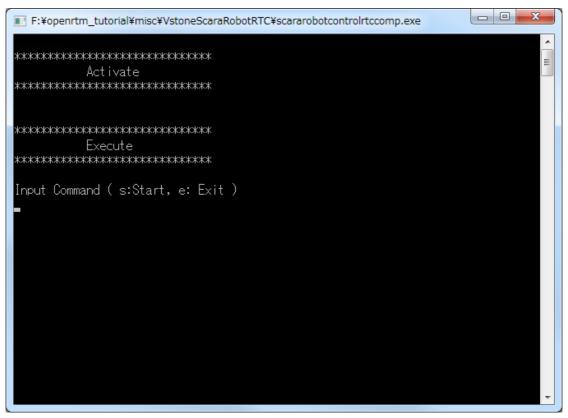


図 7.1 ScaraRobotControlRTC のコンソール画面

- オペレーションファイルの実行: 《a》
 《a》を入力すると、コンフィギュレーションの FilePass で指定したオペレーションファイルに記述されたコマンドを上から順に 1 行ずつ実行する. オペレーションファイルの記述方法は 5 章で述べた通りである.
- 終了処理:≪e≫ ≪e≫を入力すると、ScaraRobotControlRTC を Deactivate する.

8. ソースコード、ライブラリの引用・参照箇所

ScaraRobotControlRTC を作成するに当たって引用したソースコード、ライブラリを以下に示す.

■ 新たに作成したソースコード内で引用

None

- ソースコード・ライブラリそのものを引用
- 「ManipulatorCommonInterface_DataTypes.idl」(「ロボットアーム制御機能共通インタフェース 仕様書_20120224.pdf」 http://openrtm.org/openrtm/sites/default/files/RobotArm_Interface1.0.zip
 7.1 ManipulatorCommonInterface_DataTypes.idl (p.19)
- 「ManipulatorCommonInterface_Common.idl」(「ロボットアーム制御機能共通インタフェース仕 様書_20120224.pdf」 http://openrtm.org/openrtm/sites/default/files/RobotArm_Interface1.0.zip,)
 7.2 ManipulatorCommonInterface_Common.idl (pp.20-21)
- ・ 「ManipulatorCommonInterface_MiddleLevel.idl」(「ロボットアーム制御機能共通インタフェース 仕様書_20120224.pdf」 http://openrtm.org/openrtm/sites/default/files/RobotArm_Interface1.0.zi
 p</u>)
 - 7.3 ManipulatorCommonInterface_MiddleLevel.idl (pp.21-22))
- DLL ファイル等

None

■ その他

None